

小学校第4学年
特別の教科 道徳



相互理解や寛容について、自己を見つめたり、友達の考え等をクラウド上で参照したりする中で、自己の生き方についての考えを深める。

小学校第4学年 特別の教科 道徳「内容項目B 相互理解、寛容」

■主題名

異なる意見も大切に

■ねらい

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にしようとする態度を育てる。

■教材の概要 「学級会での出来事」(出典:「道徳4 きみがいちばんひかるとき」光村図書)

学級会で人気者のよしきが、ドッジボール集会を提案すると、賛成の声が相次いだ。あずさが歌の集会を提案するとよしきが反対し、他にも反対する意見が出た。あずさは自分の意見を取り下げ、下を向き泣きそうになる。

■学習指導過程

導入

1 自分と違う意見が出た場面の気持ちを確認する。

「自分の意見が友達と違ってまとまらないとき、どのようなことを考えていますか。」

展開

2 「学級会での出来事」を読んで考える。
「どのようなことで意見がまとまらなかったのでしょうか。」

「あずさはどんな思いで、『ドッジボール集会でいいです。』といったのでしょうか。」

「司会が、『ドッジボール集会に決めていいですか。』と言ったときに、だまっていたよしきはどんなことを考えていたでしょう。」

3 自己の生き方についての考えを深める。
「自分の考えと違う考えが出たときどうしていったらいいと思いますか。」

終末

4 教師の説話を聞く。

■指導上の留意点

・本時のねらいである「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にしようとする」と関連付けて考えられるようにする。

・場面絵を大型提示装置に映しながら教材を範読する。場面ごとにイラストを切り替え、誰のどんな意図がある発言なのか分かりやすくなるように提示する。また、BGMを付けることで教材に出てくる学級内の雰囲気想像しやすくする。

・相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることとはどのようなことなのか考えられるようにする。
・子供が教師の投げかけから再び自己を見つめたり、友達の考え等をクラウド上で参照したりする中で、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

・教師が「他者の視点に立つことで、自分の世界も広がる」などの言葉のプレゼントをすることで、ねらいとする道徳的価値について、余韻をもてるようにする。

■指導上の工夫とICTの利活用

①自己の生き方についての考えを深めることができるような投げかけをする。

*クラウドと併せて大型提示装置を活用することによって、子供たちの考えを学級全体で共有することができる。

②子供たちが端末に自分の考えを入力できる時間を確保する。

*時間を確保することによって、子供たちがじっくりと自己を見つめることができる。また、その際、学習支援ソフトを活用することによって、クラウド上にあるこれまでの道徳科の授業における自分の考えもすぐに振り返ることができる。

③友達の考え等をクラウド上で参照できるようにする。

*友達の考え等をクラウド上で参照できるようにすることで、子供たちは、ねらいに関わる相互理解や寛容について多様な考えに接することができ、より深く自己の生き方について考えていく。

【活用したソフトや機能】
Padlet

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿

【学習活動の場面】

展開の終盤における学習活動の場面において、ねらいに関わる相互理解や寛容について、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。そのために教師は、「自分の考えと違う考えが出たとき、どうしていったらいいと思いますか。」と投げかけ、子供がそのことについての自分の考えを端末に入力したり、友達の考え等をクラウド上で参照したりすることができる時間を確保した。

【子供の「深い学び」の姿】

子供たちは、教材の登場人物の生き方を通して、ねらいに関わる相互理解や寛容について自分との関わりで考えてきた。

【発表時のAさんの意見】

- ・もっとあずさの考えを聞けばよかったかもしれない。
- ・言い方を変えればよかった。

【教師の発問】

その後教師は、子供が自己の生き方についての考えを深めることができるようにするために「自分の考えと違う考えが出たとき、どうしていったらいいと思いますか。」と投げかけた。(子供は自分の考えをICT端末に入力、友達の考え等をクラウド上で参照)

【参照した友達の意見】

- ・友達の意見を取り入れることも大切だ。

【参照した過去の自分(Aさん)の意見】

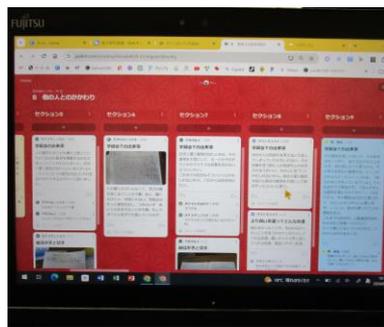
- ・友達と仲よくするためには、自分の意見を言うことも大切だ。

【最終的なAさんの記述から】

- ・これまで自分の意見ばかり言っていたが、自分と違う意見が出たら「いいね」とコメントしたり、2つの意見が出たらそれを合わせたりのがいいと思った。

【当該指導での「深い学び」】

「深い学び」を実現するためには、展開の終盤における学習活動の場面において、子供一人一人が、「道徳的諸価値についての理解」と「自己の生き方についての考え」を相互に関連付けながら深い理解、深い考えとなっていくようにすることが重要である。本授業においては、相互理解や寛容について、自分がとるべき行動に着目して考えていたAさんが、相互理解や寛容に関わる教師の投げかけから、友達や過去の自分の考え等をクラウド上で参照したり、再び自己を見つめたりする中で、行動の背景にある相互理解や寛容の意義を理解し、自分と異なる考えや意見を大切にすることのよさについて考えを深めることができたと考える。



学習指導要領や解説との関連

小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

出典：小校学習指導要領P162

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 道徳科の評価 第2節 道徳科における児童の学習状況及び成長の様子についての評価 2の(1)

(1) (前略) 道徳科では、児童が「自己を見つめ」「多面的・多角的に」考える学習活動において、「道徳的諸価値についての理解」と「自己の生き方についての考え」を、相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく。(後略)

出典：小校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P110